

## イスラエルを軸に聖書を読む

前橋聖書フォーラム

はじめに

2017年8月の末から、前橋聖書フォーラムでは月に1回、イスラエルについて学び、イスラエルのために祈るという時間を設けています。なぜそのような時間を設けたかという、それは「神がイスラエルを愛しておられるから」です。聖書の内容は創世記12章以降、ほとんどがアブラハム、イサク、ヤコブ、そして彼らの子孫であるイスラエルと言う民族を中心に展開していきます。神がイスラエルを愛しておられるということは、聖書の様々な箇所から分かることなのです。そして、「イスラエル」が聖書の中でも重要なテーマであるということを確認するため、これまでの祈り会で、神がイスラエルと結ばれたいくつかの契約を確認してきました<sup>1</sup>。そこから、神は全人類へ祝福をもたらす「パイプ役」として、アブラハム、イサク、ヤコブとその子孫を選ばれたのだ、ということを知りました。次に、神はイスラエルに、契約を通して、彼らを選ばれた民としてイスラエルの地に回復されるという約束を与えられました。また、神の選びは変わることなく、将来イスラエルを通して、全人類に祝福がもたらされます。神は真実なお方ですから、与えられた約束は必ず成就するはずなのです。

しかし、こういった「イスラエル民族の約束の地への回復」や「イスラエル民族を通じた全人類の祝福」といった教えを否定する立場もあります。聖書フォーラム運動の中では「置換神学」と呼ばれています。今回はこの「置換神学」について少しでも知り、情報を整理してみましょう。それによって、私たちが聖書を読む上でイスラエルをどう捉えるかがいかに大切なのか、確認していきたいと思えます。

### 1. イスラエルの捉え方に関する4つの立場

ここではキリスト教神学において「イスラエル」という存在がどのように考えられているのか、代表的な4つの立場を取り上げてみたいのですが、まずは前述の「置換神学」（置き換え神学、と呼ばれることもある）という用語について説明させていただきます。中川健一牧師は「月刊ハーベスト・タイム」2017

---

<sup>1</sup> 内容は「聖書フォーラム」ホームページ内、前橋聖書フォーラムのページで確認することができる。下記リンク先を参照されたい。

「2016年8月27日『イスラエルのために祈る』」<<http://seishoforum.net/maebashi/2016/08/46/>>

「2016年11月26日『イスラエルを導くモーセの律法』」<<http://seishoforum.net/maebashi/2016/12/63/>>

「2017年1月28日『土地の契約』」<<http://seishoforum.net/maebashi/2017/02/73/>>

「2017年3月25日『ダビデ契約』」<<http://seishoforum.net/maebashi/2017/03/88/>>

「2017年4月8日『新しい契約』」<<http://seishoforum.net/maebashi/2017/04/90/>>

年7月号の中でこのテーマを取り上げ、置換神学について次のように説明されています。

「旧約のイスラエルは見捨てられ、教会が霊的イスラエルとなった」というのが、置換神学である。つまり「救済史上のイスラエルの役割は、キリストの初臨をもって終わった。イスラエル民族はキリストを拒否し、今や呪いの下にある。キリストを信じる教会こそが、真の神の民、霊的イスラエルである」というのがその立場である。<sup>2</sup>

また、国際キリスト教団体 Bridges For Peace のティーチングレターでは、置換神学の具体的な内容として、次のように述べられています。

1. 「教会」が「イスラエル」の立場を引き継いだ—イスラエルがイエスをメシアとして受け入れなかった罪のために、聖書の中でイスラエル（ユダヤ人とその国土）が占めていた位置は、神によって取り去られ、代わりにキリスト教会がその地位を引き継いだ。
2. ユダヤ人はもう「選びの民」ではない—彼らは、選民としての特別な地位を失った。ゆえに、イギリス人やスペイン人、アフリカ人などといった、他の異邦人と全く変わらない存在である。
3. 聖書に書かれている「イスラエル」は、教会を指している—使徒行伝2章のペンテコステの出来事以来、聖書の「イスラエル」は、教会を指す言葉となった。聖霊の働きを受け、それによって内面的に変えられた者、つまり教会だけが真のイスラエル人である。
4. イスラエルへの約束は、すべて教会に与えられた—聖書でイスラエルに与えられている約束、契約、そして祝福は、彼らが選民としての立場を失うと同時に、ユダヤ人から取り去られ、今や彼らに取って代わった教会に与えられている。一方、ユダヤ人はキリストを拒絶した結果、聖書のすべての呪いを負う者となった。<sup>3</sup>

以上のことから分かるように、置換神学 (replacement theology) という名は、教会がイスラエルに「取って代わった」あるいは「置き換えられた」存在である、という教えからつけられたものです。しかし、よく「置換神学」として批判されている人々の考えを見てみると、様々な細かい違いがあることに気づきます<sup>4</sup>。具体的な違いについては後に見ていくこととしますが、私たちが「置換神学」と呼んでいる立場も一枚岩ではないのです。

英語圏では、この立場については replacement theology ではなく supersessionism という語が用いられ

---

<sup>2</sup> 中川健一「置換神学について」『月刊ハーベスト・タイム』Vol. 376 (2017年7月) 2頁

<sup>3</sup> BFP 編集部「置換神学とは? Part-1」BFP ティーチングレター、2002年9月  
<<http://www.bfpj.org/know/teachingletter/?id=45>> (2017年7月11日閲覧)

<sup>4</sup> Cf. Michael J. Vlach, "Various Forms of Replacement Theology," *The Master's Seminary Journal*, 20:1 (Spring 2009), pp. 57-69.

ることがあります。Michael Vlach 博士はこの語の意味について次のように解説しています。

この *supersessionism* という用語は、*super* (～の上に) と *sedere* (座る) という 2 つのラテン語の単語から来ている。ここには、ある人物が別の者にとって代わり、その椅子に座るという概念が示されている。「Replacement theology」という呼び名は、*supersessionism* の類義語として見なされることが多い。今のところ、一般的な文書ではこの [replacement theology という] 名が最も頻繁に用いられている。<sup>5</sup>

しかしながら、英語圏の神学者たちが replacement theology という呼び名を用いるときには、限定的な立場を指していることが多いようです。置換神学に立っているとして批判されている人々の中には、「イスラエル民族は見捨てられ、呪いの下にある」という考えは否定しつつも、「教会は新しいイスラエル、真のイスラエル、霊的イスラエル」だと考えている人々がいます<sup>6</sup>。また、「教会は新しいイスラエル」という呼び方さえも使わず、「イスラエルに対する神の契約はイエスにあって成就した」という点を強調し、イスラエルに与えられていた契約の内容は教会に適用されるのだ、とする考えもあります<sup>7</sup>。以上のような立場の人々が replacement theology や supersessionism と言うときには、「イスラエル民族は今や呪いの下にあり、彼らは教会にとって代わられた」という立場を特別に指している場合があります<sup>8</sup>。

以上のことから分かるように、聖書解釈者が「イスラエル」についてどのように考えているか、という問題は、とても単純に論じられることではありません。しかし、不十分かつ単純化しすぎているということとは承知の上で、ここではよく見られるイスラエル論を4つの立場に分類してご紹介したいと思います。

### (1) イスラエルは不信仰のために罰せられ、その役割は教会にとって代わられた。

R. Kendall Soulen 博士は、この立場を「懲罰的置換神学 punitive supersessionism」と呼んでい

---

<sup>5</sup> Vlach, *Has the Church Replaced Israel? A Theological Evaluation* (Nashville, TN: B&H Publishing Group, 2010), p. 9.

<sup>6</sup> たとえば、以下を参照のこと。ジョージ・エルドン・ラッド『終末論』安黒務訳 (いのちのことば社、2015年) 30頁; ミラード・J・エリクソン『キリスト教神学』第4巻、宇田進監修、森谷正志訳 (いのちのことば社、2006年) 231頁

<sup>7</sup> Cf. Chad O. Brand and Tom Pratt, “The Progressive Covenantal View,” in *Perspectives on Israel and the Church: 4 Views*, ed. Chad O. Brand (Nashville, TN: B&H Publishing Group, 2015), Kindle edition, locations 5091–876.

<sup>8</sup> Cf. Steve Lehrer, *New Covenant Theology: Question Answered* (n.p.: Steve Lehrer, 2006), p. 203; Brand and Pratt, “Response by Chad O. Brand and Tom Pratt Jr.,” in *Perspectives on Israel and the Church*, locations 1548–59.

ます<sup>9</sup>。既にご説明したように、英語圏で「置換神学 replacement theology / supersessionism」と言われるときには、このような考え方を指していることが多いです。

**(2) イスラエルの役割は、「真のイスラエル」であるイエス・キリストの到来によって完成・成就した。その役割は教会に引き継がれた。**

Soulen 博士は、このような立場を「経綸的置換神学 economic supersessionism」と呼んでいます<sup>10</sup>。この立場では、「イスラエルは見捨てられ、呪いの下にある」という言い方はほとんどなされません。また、将来イスラエル民族は救われる、と教えられていることもあります<sup>11</sup>。ただ、神のご計画におけるイスラエルの特別な役割は果たされたのだ、成就したのだ、ということが強調されています。ですから、この立場では、その基本的な考えが「成就神学 fulfillment theology」と表現されることがあります<sup>12</sup>。ただし、このような立場においても、教会のことを「霊的イスラエル」とか「真のイスラエル」と呼ぶ者がいることには変わりありません<sup>13</sup>。

**(3) 異邦人はイエスがもたらした新しい契約によって救われるが、ユダヤ人は神がイスラエルと結ばれた契約（アブラハム契約とモーセ契約）によって救われる。**

この立場は、先の2つの立場とは少し異なります。これは「二契約神学 two-covenants theology / dual-covenants theology」と呼ばれています。ユダヤ人は神がイスラエルと結ばれたアブラハム契約とモーセ契約によって、異邦人はキリストの新しい契約によって救われる。すなわち、人類を救う契約が2つあるのだ、という立場です<sup>14</sup>。この立場では、ユダヤ人が救われるためにはキリストを信じることは必要ない、と言われていています。しかし、聖書はユダヤ人も異邦人もイエスを信じ

---

<sup>9</sup> R. Kendall Soulen, *The God of Israel and Christian Theology* (Minneapolis, MN: Fortress Press, 1996), p. 30; Vlach, "Various Forms of Replacement Theology," 60–61.

<sup>10</sup> Soulen, *The God of Israel and Christian Theology*, 28–30; Soulen, "The Standard Canonical Narrative and the Problem of Supersessionism," in *Introduction to Messianic Judaism: Its Ecclesial Context and Biblical Foundations*, eds. David Rudolph and Joel Willitts (Grand Rapids, MI: Zondervan, 2013), p. 288; Vlach, "Various Forms of Replacement Theology," pp. 61–63.

<sup>11</sup> ラッド『終末論』32–34頁；エリクソン『キリスト教神学』第4巻、232頁

<sup>12</sup> Lehrer, *New Covenant Theology*, p. 203.

<sup>13</sup> ラッド『終末論』30頁；George Eldon Ladd, *A Theology of the New Testament*, revised ed. (Grand Rapids, MI: Eerdmans, 1993), pp. 583–85; Robert B. Strimple, "Amillennialism," in *Three Views on the Millennium and Beyond*, ed. Darrell L. Bock (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1999), pp. 88–89.

<sup>14</sup> 中川健一『エルサレムの平和のために祈れ——続ユダヤ入門——』（ハーベスト・タイム・ミニストリーズ出版部、1993年）97頁

ることで救われるのだと教えていることは、言うまでもありません<sup>15</sup>。

**(4) イスラエルの不信仰は一時的なものである。神のご計画におけるイスラエルの役割は今も続いており、イスラエルは将来民族的に回復される。**

これが、私が冒頭で述べた、そして聖書フォーラム運動が取っている立場です。Vlach 博士は、この立場を「非置換神学 nonsupersessionism」と呼んでいます<sup>16</sup>。(1)の懲罰的置換神学や(2)の経綸的置換神学（あるいは成就神学）と大きく異なっているのは、まず決して教会のことを「イスラエル」と呼ばないということです。また、(2)とは異なり、イスラエル民族の将来の救いだけではなく、彼らが民族的に回復されるとも考えられています<sup>17</sup>。

先に述べた通り、キリスト教神学におけるイスラエル論はさらにいくつもの立場に分類することができますが、ここでは以上の4つの分類に留めたいと思います。神学書や論文などで一般的に「置換神学」という時には(1)の立場を指していることが多いです。しかし、(1)も(2)も、「今は教会がイスラエルの役割と立場にある」と考えている点では変わりません。ですから、本稿では便宜的に、(1)と(2)の立場をまとめて「置換神学」と呼ぶことにしたいと思いますので、ご了承下さい<sup>18</sup>。

## 2. 私たちが「非置換神学」の立場を取る理由

---

<sup>15</sup> 二契約神学に関する説明およびこの立場に対する反論については、以下を参照のこと。Arnulf H. Baumann, “The Two Ways / Two Covenants Theory,” *Mishkan*, 11 (1989), pp. 36–42; Maurice G. Bowler, “Rosenzweig on Judaism and Christianity,” *Mishkan* 11 (1989), pp. 1–8; Mitch Glaser, “Critique of the Two Covenant Theory,” *Mishkan*, 11 (1989), pp. 44–68; 中川『エルサレムの平和のために祈れ』97–109頁

<sup>16</sup> Vlach, *Has the Church Replaced Israel?*, p. 10, n. 5.

<sup>17</sup> Ibid. この立場に関する説明については、本稿の終わりに示す推奨文献や、以下を参照のこと。John A. Jelinek, “The Dispersion and Restoration of Israel to the Land,” in *Israel, the Land and the People: An Evangelical Affirmation of God’s Promises*, ed. H. Wayne House (Grand Rapids, MI: Kregel Publications, 1998), pp. 231–58; Craig A. Blaising, “The Future of Israel as a Theological Question,” *Journal of the Evangelical Theological Society*, 44:3 (September 2001), pp. 435–50; Mark R. Saucy, “Israel as a Necessary Theme in Biblical Theology,” in *The People, the Land, and the Future of Israel: Israel and the Jewish People in the Plan of God*, eds. Darrell L. Bock and Mitch Glaser (Grand Rapids, MI: Kregel Publications, 2014), pp. 169–81; Arnold G. Fruchtenbaum, “Israelology,” in *Evangelical Bible Doctrine: Articles in Honor of Dr. Mal Couch*, eds. Kenny Rhodes and Keith Sherlin (Bloomington, IN: AuthorHouse, 2015), pp. 269–93.

<sup>18</sup> Kaiser や Vlach もまた、(2)の立場については実質的に置換神学 (replacement theology / supersessionism) と呼ぶことが可能であると主張している (Walter C. Kaiser Jr., “An Assessment of ‘Replacement Theology’,” *Mishkan*, 71 (2013), pp. 41–51; Vlach, *Has the Church Replaced Israel?*, pp. 9–12)。

また、成就神学 (fulfillment theology / fulfillment theory) が本質的には置換神学と呼ばれるものと変わらないということについては、以下を参照のこと。Scot McKnight, “NT Wright and the Supersessionism Question: What did Paul do?,” *Patheos* (Oct 15, 2003), <<http://www.patheos.com/blogs/jesuscreed/2013/10/15/nt-wright-and-the-supersessionism-question-what-did-paul-do/>>; accessed Jul 10, 2017.

神がイスラエルと結ばれた契約の中で、将来イスラエルが回復されるという約束が含まれていることは、過去の祈り会で何度も確認してきました。ここでは、2つのことを申し上げたいと思います。第一に、「聖書の中ではっきりと教会が『イスラエル』と呼ばれている箇所はない」ということ。第二に、聖書ははっきりと「イスラエルの選びが変わることはない」と言っている、ということです。

#### A. 聖書の中ではっきりと教会が「イスラエル」と呼ばれている箇所はない。

新改訳聖書では、「イスラエル」という言葉は旧約聖書で 2,550 箇所、新約聖書では 80 箇所の聖句に出てきます。その中で、「イスラエル」という言葉が教会を指して使われていると明言できる箇所は、ひとつもありません<sup>19</sup>。旧約聖書の中では、「イスラエル」は 4 つの意味を持っています。まず、アブラハムの孫であるヤコブの別名です。次に、ヤコブの子孫である民族です。3 番目に、イスラエル民族の国が「イスラエル」と呼ばれています。4 番目は例外的ですが、イザヤ書 49:3 ではメシアのことが「イスラエル」と呼ばれています<sup>20</sup>。

新約聖書のギリシャ語原文では、「イスラエル」を指す *Israēl* という単語が 66 箇所、「イスラエル人」を指す *Israēlitēs* という単語が 9 箇所使われています<sup>21</sup>。その中でも、これは教会のことをイスラエルと呼んでいるのではないかと議論になる箇所は多く見ても 5 箇所（ロマ 9:6；11:26；ガラ 6:16；黙 7:4；21:12）程度です。それら以外は全て、明らかにイスラエル人や彼らの国、土地などを指しています。さらに、問題となる 5 つの聖句についても、そこに出てくる「イスラエル」は教会と考えなくても解釈が成立します。特に興味深いのは、使徒の働きです。使徒の働きには *Israēl* と *Israēlitēs* が合わせて 20 回、教会を指す *ekklēsia* という言葉は 19 回使われています。使徒の働きの中では教会とイスラエルが同時に存在しているのですが、「イスラエル」が教会を指すことも、教会が「イスラエル」を指していることもありません<sup>22</sup>。

<sup>19</sup> この点に関する研究については、以下を参照のこと。Robert L. Saucy, “Israel and the Church: A Case for Discontinuity,” in *Continuity and Discontinuity: Perspectives on the Relationship Between the Old and New Testaments*, ed. John S. Feinberg (Wheaton, IL: Crossway, 1988), pp. 239–59; Fruchtenbaum, “Israel and the Church,” in *Issues in Dispensationalism*, eds. Wesley R. Willis and John R. Master (Chicago: Moody Press, 1994), pp. 113–30.

<sup>20</sup> Kaiser, *The Messiah in the Old Testament* (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1995), pp. 175–6; Fruchtenbaum, *Messianic Christology: A Study of Old Testament Prophecy Concerning the First Coming of the Messiah* (San Antonio, TX: Ariel Ministries, 1998), p. 49; Saucy, “Israel and the Church,” p. 242; Ladd, *A Theology of the New Testament*, p. 367, n. 3; Vlach, “What Does Christ as ‘True Israel’ Mean for the Nation Israel?: A Critique of the Non-Dispensational Understanding,” *The Master’s Seminary Journal*, 23:1 (Spring 2012), pp. 43–54; Michael Rydelnik and James Spencer, “Isaiah,” in *The Moody Bible Commentary*, eds. Michael Rydelnik and Michael Vanlaningham (Chicago: Moody Publishers, 2014), p. 1081.

<sup>21</sup> 本稿付録「新約聖書における『イスラエル』の登場箇所」を参照されたい。

<sup>22</sup> Fruchtenbaum, “Israel and the Church,” p. 118. Cf. Darrell L. Bock, “Israel in Luke-Acts,” in *The People, the*

以上のことから、教会のことを何かしらの形で「イスラエル」と表現することは、聖書の文脈の中では少し不自然なのだということがわかります。

## B. イスラエルの選びは変わらない。

神は、イスラエルの民と「新しい契約」を結ばれることをエレミヤ書 31 章で預言されました。その直後に、主は次のように言っておられます。

主はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の主。「もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、——主の御告げ——イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で、一つの民をなすことはできない。」主はこう仰せられる。「もし、上の天が測られ、下の地の基が探り出されるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行なったすべての事のために退けよう。——主の御告げ——（エレミヤ書 31:35-37）

天地万物の創造主である神は、「もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、……イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で、一つの民をなすことはできない」と言われました。また、「もし、上の天が測られ、下の地の基が探り出されるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行ったすべての事のために退けよう」と言われました。これは逆に言えば、そのようなことは起こり得ない、ということです。神はこのような言い方で、「新しい契約」によってイスラエルの罪が赦され、彼らが神に立ち返るという約束を保証されているのです。似たようなことを、パウロは次のように説明しています。

兄弟たち。私はあなたがたに、ぜひこの奥義を知っていただきたい。それは、あなたがたが自分で自分を賢いと思うことがないようにするためです。その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになったのは異邦人の完成のなる時までであり、こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」彼らは、福音によれば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びによれば、先祖たちのゆえに、愛されている者なのです。神の賜物と召命とは変わることがありません。（ローマ人への手紙 11:25-29）

まさに、神は契約に忠実であり、真実なお方なので、「神の賜物と召命とは変わることがありません」。もし神がご自分の契約を果たされないでイスラエルを見捨てられた、あるいはその役割をまるま

る教会に引き渡してしまったなら、私たちはアブラハムに、イサクに、ヤコブに、旧約聖書の聖徒たちに、「神の賜物と召命とは変わることがありません」と胸を張って言うことができるでしょうか。ですから、私たちは聖書研究の結果に従って、置換神学ではなく、非置換神学の考え方に至ったのです。

### 3. 置換神学の危険性

次に、置換神学が孕んでいる危険性を取り上げたいと思います。そのためには、置換神学の歴史を少し振り返ることが良いでしょう。使徒たちの時代の直後（あるいはその時代、既に）、異邦人伝道の成功による異邦人信者の急増によって、教会は異邦人中心の組織となっていました。紀元 2 世紀には、早くも「教会こそ霊的イスラエルである」という教理が生まれはじめます<sup>23</sup>。その背景には、ユダヤ人社会におけるメシアニック・ジュー（ユダヤ人信者）への迫害、異邦人教会とユダヤ教の対立といった要因がありました。少し時代が下って紀元 4 世紀頃になると、キリスト教をローマ帝国の国教としたコンスタンティヌス帝の下でユダヤ人への差別と迫害が激しくなります。その影響も受け、イスラエルはキリストを拒み殺した民として退けられ、その位置は教会に置き換えられたという考えが確立されるようになりました<sup>24</sup>。

教会からユダヤ人やユダヤ的要素を取り除こうという流れは、中世も、さらに宗教改革の時代に至っても続きました。特に、マルティン・ルターの反ユダヤ主義の影響は、見過ごせないものがあります。彼は当初、イエスがユダヤ人の子孫であるということに注目し、ユダヤ人伝道に志を向けていました。しかし、福音を受け入れないユダヤ人たちの頑なな態度により、ルターは彼らを敵視するようになります。彼は 1543 年に「ユダヤ人と彼らの嘘について」という論文を発表し、ユダヤ人を「有毒な」「盗賊たち」「むかつく社会のダニ」などと表現し、「ユダヤ人は永久に国外追放されるべき」だと訴えました<sup>25</sup>。

ルターの反ユダヤ主義は、ドイツ国内においてかなりの影響があったようです。ホロコーストを推進したナチスは、「ルターのこの言葉とほかの反ユダヤ的教理を利用し、恐るべき結果を招きました」<sup>26</sup>。

---

<sup>23</sup> Vlach, *Has the Church Replaced Israel?*, p. 27; Soulen, *The God of Israel and Christian Theology*, pp. 34–40; Gerald R. McDermott, “A History of Supersessionism: Getting the Big Story Wrong,” in *The New Christian Zionism: Fresh Perspectives on Israel & the Land*, ed. McDermott (Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 2016), pp. 36–37; マービン・R・ウィルソン『私たちの父アブラハム』B.F.P.Japan 出版部訳 (B.F.P.Japan、2015 年) 133–35 頁

<sup>24</sup> ウィルソン『私たちの父アブラハム』141–46 頁; Edward Kessler, *An Introduction to Jewish-Christian Relations* (Cambridge: Cambridge University Press, 2010), pp. 5–6.

<sup>25</sup> ウィルソン『私たちの父アブラハム』149 頁; Kessler, *An Introduction to Jewish-Christian Relations*, pp. 119–20; Vlach, *Has the Church Replaced Israel?*, pp. 55–57.

ルターの『ユダヤ人と彼らの嘘について』の英語翻訳は下記 URL で閲覧することができる。  
[http://jdstone.org/cr/pages/sss\\_mluther.html](http://jdstone.org/cr/pages/sss_mluther.html)

<sup>26</sup> ウィルソン『私たちの父アブラハム』149 頁

ルターが起こした宗教改革への評価は、晩年の彼の反ユダヤ主義によって覆されるべきではありません。しかし、私たちクリスチャンが歩んできた歴史を考える上では、彼の反ユダヤ主義もまた忘れ去られてはなりません。ナチス・ドイツ以外にもヨーロッパ諸国で引き起こされたユダヤ人迫害の背景には、反ユダヤ的な教えの上に建て上げられた西洋的キリスト教の影響があったことは確実です<sup>27</sup>。

そして、今もなお、反ユダヤ主義に対する置換神学の影響は根強いものと考えられます。今は、クリスチャンとして現代のイスラエル国をサポートしようとする「クリスチャン・シオニズム Christian Zionism」という動きと、「イスラエルはパレスチナのアラブ人たちを暴力的に追放することによって建国された国なのだから、シオニズムは道徳的ではない」とする「反シオニズム Anti-Zionism」という2つの立場の対立が激しくなっています<sup>28</sup>。クリスチャン・シオニズムの立場にいる人々の多くは将来におけるイスラエルの回復を信じているため、反シオニズムの人々は、置換神学によりクリスチャン・シオニズムへの反論を試みています<sup>29</sup>。そして、反シオニズムの動きはイスラエル製品の不買運動などに繋がり、結果的には新たな反ユダヤ主義を生み出す一因にもなっているのです<sup>30</sup>。

#### 4. イスラエルを聖書的に捉えることの大切さ

最後に、改めて、イスラエルを「教会」ではなくイスラエルとして捉えて聖書を読むことの大切さを考えてみたいと思います。聖書の大部分は、イスラエルに関する記述です。イエスもまた、第一義的にはイスラエルのメシアとして来られました<sup>31</sup>。すなわち、イスラエルに関する理解が変われば、聖書の全体像の捉え方も変わってくるのです。もしくは、イスラエルに関して何も理解しようとしなければ、聖書の全体像を捉えることはできないのです。では、イスラエルの理解に基づいて聖書を学ぶことがなぜ重要だ

<sup>27</sup> 前掲書、148-51頁；カール・バルト「ユダヤ人問題とそのキリスト教の応答」兩宮栄一訳『カール・バルト著作集7』（新教出版社、1975年）283-89頁

<sup>28</sup> クリスチャン・シオニズムと反シオニズムの対立については Mark Tooley, “Theology and the Churches: Mainline Protestant Zionism and Anti-Zionism,” in *The New Christian Zionism*, pp. 197-219 を参照のこと。

<sup>29</sup> Donald E. Wagner, *Anxious for Armageddon: A Call to Partnership for Middle Eastern and Western Christians* (Scottsdale, PA: Herald Press, 1995); Stephen Sizer, “Christian Zionism: Justifying Apartheid in the Name of God,” *Churchman*, 115:2 (2000), pp. 147-71.

<sup>30</sup> 反シオニズムと反ユダヤ主義については、Thomas Ice, *The Case for Zionism: Why Christians Should Support Israel* (Green Forest, AR: New Leaf Press, 2017)で詳細に論じられている。

<sup>31</sup> ルカ 1:32-33；マタ 10:5-6 参照。Cf. McKnight, *A New Vision for Israel: The Teachings of Jesus in National Context* (Grand Rapids, MI: Eerdmans, 1999), pp. 10-13; Michael J. Wilkins, “Israel According to the Gospels,” in *The People, the Land, and the Future of Israel*, pp. 90-97. この点を含む包括的な研究については以下を参照のこと。J. Dwight Pentecost, *The Words and Works of Jesus Christ: A Study of the Life of Christ* (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1981); Bock, *Jesus According to Scripture: Restoring the Portrait from the Gospels* (Grand Rapids, MI: Baker Academic, 2002).

と言えるのか、ここでは具体的な理由を2つ取り上げてみましょう。

第一に、**神のご性質への理解が深まる**ということです。イスラエルへの契約を通して神のご計画の全体像を学ぶことで、神は契約を忠実に守られるお方である、ということにより理解することができます。また、罪を犯したイスラエルへの裁きから、罪と相容れない神の義の性質がより理解できます。そして、イスラエルの罪が赦され、本来の「全人類へ祝福を運ぶパイプ役」の民族として回復されるという約束から、慈しみ深い神の愛のご性質をより理解することができます。

パウロは、イスラエルを論じることで神のご計画の全体像を確認し、感動の故に次のように神をほめたたえています。

ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りがたいことでしょう。なぜなら、だれが主のみこころを知ったのですか。また、だれが主のご計画にあずかったのですか。また、だれが、まず主に与えて報いを受けるのですか。というのは、すべてのことが、神から発し、神によって成り、神に至るからです。どうか、この神に、栄光がとこしえにありますように。アーメン。(ローマ人への手紙 11:33-36)

イスラエルの理解に基づいて聖書を学ぶことは、パウロとこの感動を共有することに至るのです。

第二に、**教会、すなわちキリストの体という視点から、異邦人信者としての私たちの役割がわかる**ということです。教会とは、キリストの体です。そしてその体は、ユダヤ人信者と異邦人信者という「二つのもの」が「新しいひとりの人」として造り上げられたものです(エペ 2:11-26)。その体の中では、ユダヤ人信者の役割もあれば、異邦人信者の役割もあります。私たちはイスラエルの理解に基づいて聖書を学ぶことで、キリストの体における私たち異邦人信者の役割について学ぶことができます。パウロはローマ人への手紙 11:11-12 の中でイスラエルについて論じながら、異邦人信者の役割について次のように教えています。今はイスラエルが頑なになり、異邦人に救いがより及んでいる時代です。その目的は、イスラエルに嫉みを起こさせ、救いに導くためです。イスラエルの違反が異邦人の富となったのだから、イスラエルがみな救われて完成したならば、どんなにか素晴らしいものがもたらされるでしょうか。

また、同じ手紙の最後の方で、パウロは「異邦人は霊的なことでは、その人々からもらいものをしたのですから、物質的な物をもって彼らに奉仕すべきです」と言っています(ロマ 15:27)。「とこしえにヤコブの家を治め」る方であるイエスは十字架で死なれ、復活し、罪の赦しと新しい命をお与えになりました。その罪の赦しと新しい命が、今は私たち異邦人へも及んでいるのです。私たちの霊的祝福は、神とイスラエルの契約を土台として与えられているものです。よって、私たちはユダヤ人から「霊的なことでもらいものをした」のだと言えます。だから、私たち異邦人信者は、同じキリストの体のもう一対を成すユダヤ人信者のために、物質的に援助をすべきだということです<sup>32</sup>。

---

<sup>32</sup> Gerald Peterman, "Social Reciprocity and Gentile Debt to Jews in Romans 15:26-27," *Journal of the Evangelical Theological Society*, 50:4 (December 2007), pp. 735-46.

おわりに

本稿で取り上げてきた置換神学は、今なおキリスト教では主流の考えです。もちろん、私たちはクリスチャン同士的一致ということを考えなくてはなりません。ですが、聖書を読めば読むほどに、私たちは置換神学を受け入れることができないのです。聖書の物語は全人類の物語ですが、その物語はイスラエルという民を軸にしています。私たちは聖書から、イスラエルについて本質を見極めなくてはなりません。

そして、イスラエルを軸として聖書を読んでいくことで、神というお方の素晴らしさを、また神が聖書を通して伝えておられるご計画の素晴らしさを、もっと知ることができると思っています。パウロがイスラエルに対する神のご計画を教えながら捧げた賛美を、私たちも一緒に捧げたいではありませんか。「ああ、神の知恵と知識との富は、何と底知れず深いことでしょう。そのさばきは、何と知り尽くしがたく、その道は、何と測り知りたいたいことでしょう。」

推奨文献

- Bock, Darrell L. and Mitch Glaser, eds. *The People, the Land, and the Future of Israel: Israel and the Jewish People in the Plan of God*. Grand Rapids, MI: Kregel Publications, 2014.
- Brand, Chad O., ed. *Perspectives on Israel and the Church: 4 Views*. Nashville, TN: B&H Publishing Group, 2015.
- Fruchtenbaum, Arnold G. *Israelology: The Missing Link in Systematic Theology*. Revised edition. Tustin, CA: Ariel Ministries, 1993.
- House, H. Wayne, ed. *Israel, the Land and the People: An Evangelical Affirmation of God's Promises*. Grand Rapids, MI: Kregel Publications, 1998.
- Ice, Thomas. *The Case for Zionism: Why Christians Should Support Israel*. Green Forest, AR: New Leaf Press, 2017.
- McDermott, Gerald R., ed. *The New Christian Zionism: Fresh Perspectives on Israel & the Land*. Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 2016.
- Soulen, R. Kendall. *The God of Israel and Christian Theology*. Minneapolis, MN: Fortress Press, 1996.
- Vlach, Michael J. *Has the Church Replaced Israel? A Theological Evaluation*. Nashville, TN: B&H Publishing Group, 2010.
- ウィルソン、マービン・R『私たちの父アブラハム』B.F.P.Japan 出版部 (B.F.P.Japan、2015年)
- 中川健一『エルサレムの平和のために祈れ——続ユダヤ入門——』(ハーベスト・タイム・ミニストリーズ出版部、1993年)
- バルト、カール「ユダヤ人問題とそのキリスト教の応答」雨宮栄一訳『カール・バルト著作集7』(新教出版社、1975年) 283-89頁

付録：新約聖書における『イスラエル』の登場箇所

表1 新約聖書における *Israēl* の登場箇所

No.	聖書箇所	聖句	備考
1	マタ 2:6	わたしの民イスラエルを治める支配者	ミカ 5:2 からの引用
2	マタ 2:20	立って、……イスラエルの地に行きなさい。	イエスの家族の「イスラエルの地」への帰還についての言及
3	マタ 2:21	そこで、……イスラエルの地に入った。	同上
4	マタ 8:10	わたしはイスラエルのうちのだれにも、このような信仰を見たことはありません。	イエスによる百人隊長への言及
5	マタ 9:33	こんなことは、イスラエルでいまだかつて見たことがない。	イエスの奇跡に対する群衆の反応
6	マタ 10:6	イスラエルの家の失われた羊のところに行きなさい。	イエスから伝道に派遣される 12 使徒への命令
7	マタ 10:23	人の子が来るときまでに、あなたがたは……イスラエルの町々を巡り尽くせない……	12 使徒が派遣される「イスラエルの町々」への言及
8	マタ 15:24	わたしは、イスラエルの家の失われた羊以外のところには遣わされていません。	イエスの言葉
9	マタ 15:31	そして彼らはイスラエルの神をあがめた。	群衆の賛美
10	マタ 19:28	わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。	イエスの使徒たちへの約束
11	マタ 27:9	イスラエルの人々に値積もりされた人の値段である。	ゼカ 11:12-13 かの引用
12	マタ 27:42	彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王だ。	イエスへの嘲りの言葉
13	マコ 12:29	イスラエルよ。聞け。	申 6:4 からの引用
14	マコ 15:32	キリスト、イスラエルの王さま。	イエスへの嘲りの言葉
15	ルカ 1:16	そしてイスラエルの多くの子らを、彼らの神である主に立ち返らせませす。	天使ガブリエルによるバプテスマのヨハネに関する預言
16	ルカ 1:54	主は……そのしもべイスラエルをお助けになりました。	マリヤの賛美
17	ルカ 1:68	ほめたたえよ。イスラエルの神である主を。	ザカリヤの賛美
18	ルカ 1:80	イスラエルの民の前に公に出現する日まで荒野にいた。	バプテスマのヨハネの描写
19	ルカ 2:25	イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。	シメオンの信仰
20	ルカ 2:32	異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの光栄です。	幼子イエスについてのシメオンの預言

21	ルカ 2:34	この子は、イスラエルの多くの人が倒れ、また立ち上がるために定められ、……	同上
22	ルカ 4:25	イスラエルにもやもめは多くいたが……	イエスによるエリヤの時代への言及
23	ルカ 4:27	イスラエルには、ツアラアトに冒された人がたくさんいたが……	イエスによるエリシャの時代への言及
24	ルカ 7:9	このようなりっぱな信仰は、イスラエルの中にも見たことはありません。	イエスによる百人隊長への言及 (No. 4 と同様)
25	ルカ 22:30	それであなたがたは、わたしの国で……王座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。	イエスの使徒たちへの約束 (No. 10 と同様)
26	ルカ 24:21	……この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。	弟子たちのイエスへの希望
27	ヨハ 1:31	しかし、この方がイスラエルに明らかにされるために、私は来て……	バプテスマのヨハネによるイエスに関する証言
28	ヨハ 1:49	あなたはイスラエルの王です。	ナタナエルによるイエスへの言葉
29	ヨハ 3:10	あなたはイスラエルの教師でありながら、……	イエスによるニコデモへの言葉
30	ヨハ 12:13	ホザナ。祝福あれ。……イスラエルの王に。	群衆によるエルサレムに入城するイエスへの賛美
31	使 1:6	主よ。今こそイスラエルのために国を再興してくださるのですか。	使徒たちによるイエスへの質問
32	使 2:36	イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。	ペンテコステの日の説教におけるペテロの言葉
33	使 4:10	皆さんも、またイスラエルのすべての人々も、よく知ってください。	ペテロの呼びかけ
34	使 4:27	事実、ヘロデとポンテオ・ピラトは、異邦人やイスラエルの民といっしょに、……イエスに逆らってこの都に集まり、	初代教会での祈りににおける、十字架へのイスラエル人と異邦人の責任に対する言及
35	使 5:21	……大祭司とその仲間たちは……議会とイスラエル人のすべての長老を招集し、……	サンヘドリンと「イスラエル人のすべての長老」への言及
36	使 5:31	そして神は、イスラエルに悔い改めと罪の赦しを与えるために、……	サンヘドリンにおけるペテロの言葉
37	使 7:23	モーセはその兄弟であるイスラエル人 (NASB: the children of Israel) を、……	サンヘドリンにおけるステパノの言葉 モーセへの言及
38	使 7:37	このモーセが、イスラエルの人々 (NASB: the children of Israel) に、……言ったのです。	同上
39	使 7:42	イスラエルの家よ。あなたがたは、……	同上
40	使 9:15	あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。	パウロの召命に関するイエスの言葉
41	使 10:36	神はイエス・キリストによって、……イスラエルの子孫にみことばをお送りに……	コルネリオに対するペテロの言葉
42	使 13:17	この民イスラエルの神は、私たちの父祖たちを選び、……	同上 出エジプト記への言及
43	使 13:23	神は、このダビデの子孫から、約束に従っ	同上

イスラエルを軸に聖書を読む

		て、イスラエルに救い主イエスをお送りに なりました。	メシア預言の成就についての言及
44	使 13:24	この方がおいでになる前に、ヨハネがイス ラエルのすべての民に、……バプテスマを 宣べ伝えていました。	同上 バプテスマのヨハネへの言及
45	使 28:20	私はイスラエルの望みのためにこの鎖につ ながれているのです。	ローマにおけるパウロの言葉
46	ロマ 9:6	なぜなら、イスラエルから出る者がみな、イ スラエルなのではなく、	パウロの言葉
47	ロマ 9:27	たといイスラエルの子どもたちの数は、海 べの砂のようであっても、救われるのは、残 された者である。	イザ 10:22 からの引用 不信仰のイスラエルと信者である「残された者」との 対比
48	ロマ 9:31	しかし、イスラエルは、義の律法を追い求め ながら、その律法に到達しませんでした。	不信仰のイスラエルへの言及
49	ロマ 10:19	はたしてイスラエルは知らなかったのもし ょうか。	イスラエルは福音を知っていたが拒否したという教え
50	ロマ 10:21	またイスラエルについては、こう言ってい ます。『不従順で反抗する民に対して、わた しは一日中、手を差し伸べた。』	神は今なお不信仰のイスラエルに手を伸ばしておら れるという教え
51	ロマ 11:2	彼はイスラエルを神に訴えて……	エリヤへの言及
52	ロマ 11:7	イスラエルは追い求めていたものを獲得で きませんでした。選ばれた者は獲得しまし たが、他の者は、かたくなにされたのです。	不信仰のイスラエルと「残された者」との対比
53	ロマ 11:25	その奥義とは、イスラエル人の一部 (NRSV: part of Israel) がかたくなになったのは異邦 人の完成のなる時までであり、	イスラエルの不信仰に関する「奥義」
54	ロマ 11:26	こうして、イスラエルはみな救われる、とい うことです。	イスラエルの救いに関する預言
55	I コリ 10:18	肉によるイスラエルのことを考えてみなさ い。……	民族的イスラエルへの言及
56	II コリ 3:7	イスラエルの人々 (ASV: the sons of Israel; NRSV: the people of Israel) が……	モーセ時代のイスラエル民族への言及
57	II コリ 3:13	そして、モーセが、消えうせるものの最後を イスラエルの人々に見せないように……	同上
58	ガラ 6:16	どうか、この基準に従って進む人々、すなわ ち神のイスラエルの上に、平安とあわれみ がありますように。(新改訳第三版) この法則に従って進む人々の上に、平安と あわれみがあるように。また、神のイスラ エルの上にあるように。(口語訳)	手紙の最後部における祝祷
59	エペ 2:12	そのころのあなたがたは、キリストから離 され、イスラエルの国から除外され、……	異邦人とイスラエルの比較
60	ピリ 3:5	私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族 に属し、ベニヤミンの分かれの者です。	パウロのアイデンティティ

61	へブ 8:8	……わたしが、イスラエルの家やユダの家と新しい契約を結ぶ日が。	「新しい契約」への言及 エレ 31:31 からの引用
62	へブ 8:10	……わたしが、イスラエルの家と結ぶ契約は、これであると、主が言われる。	同上 エレ 31:33 からの引用
63	へブ 11:22	信仰によって、ヨセフは臨終のとき、イスラエルの子孫の脱出を語り、……	ヨセフの遺言への言及
64	黙 2:14	バラムはバラクに教えて、イスラエルの人々 (NASB: the sons of Israel; NRSV: the people of Israel) の前に、つまずきの石を置き、……また不品行を行わせた。	バラムへの言及 (民 25:1-9; 同 31:16 参照)
65	黙 7:4	イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。	ヨハネに与えられた啓示における「神の僕ら」への言及
66	黙 21:12	それらの門には……、イスラエルの子らの十二部族の名が書いてあった。	「聖なる都、新しいエルサレム」(黙 21:2) における城壁の門の描写

表 2 新約聖書における *Israēlītēs* の登場箇所

No.	聖書箇所	聖句	備考
1	ヨハ 1:47	これこそ、ほんとうのイスラエル人だ。	イエスによるナタナエルへの言及
2	使 2:22	イスラエルの人たち。……	ペテロのペンテコステの日の説教における呼びかけ
3	使 3:12	……イスラエル人たち。……	ペテロの人々への呼びかけ
4	使 5:35	イスラエルの皆さん (NRSV: fellow Israelites)。……	ガマリエルによるサンヘドリンの議員たちへの呼びかけ
5	使 13:16	イスラエルの人たち、ならびに神を恐れかしこむ方々。……	アンテオケの会堂でのパウロの言葉
6	使 21:28	イスラエルの人々。手を貸してください。	ユダヤ人によるパウロ迫害の際の呼びかけ
7	ロマ 9:4	彼らはイスラエル人です。	パウロによる「イスラエル人」に与えられた特権への言及
8	ロマ 11:1	この私もイスラエル人で、……	パウロのアイデンティティ
9	II コリ 11:22	彼らはイスラエル人ですか。私もそうです。	同上

表 3 新約聖書における *Israēl* および *Israēlītēs* の登場回数

書名	登場回数	
	<i>Israēl</i>	<i>Israēlītēs</i>
マタ	12	-
マコ	2	-
ルカ	12	-
ヨハ	4	1
使	15	5
ロマ	9	2
I コリ	1	-
II コリ	2	1
ガラ	1	-
エペ	1	-
ピリ	1	-
ヘブ	3	-
黙	3	-
小計	66	9
総計		75

## 本表について

- 本表は [www.BlueLetterBible.org](http://www.BlueLetterBible.org), NASB Greek Concordance, Strong's G2474 - *Israēl*; G2475 - *Israēlītēs* を利用した調査結果に基づいている。
- 本表の作成、特に備考欄の記入に当たっては以下の文献を参考とした。特に Fruchtenbaum 1993、Fruchtenbaum 1994 および Saucy 1988 に多くを負っている。
  - (1) Burns, J. Lanier, "The Future of Ethnic Israel in Romans 11," in *Dispensationalism, Israel and the Church: The Search for Definition*, eds. Craig A. Blaising and Darrell L. Bock (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1992), pp. 190-216.
  - (2) Bock, Darrell L., "Israel in Luke-Acts," in *The People, the Land, and the Future of Israel: Israel and the Jewish People in the Plan of God*, eds. Darrell L. Bock and Mitch Glaser (Grand Rapids, MI: Kregel Publications, 2014), pp. 104-13.
  - (3) Fruchtenbaum, Arnold G., *Israelology: The Missing Link in Systematic Theology*, revised ed. (Tustin, CA: Ariel Ministries, 1993), pp. 684-90.
  - (4) Id., "Israel and the Church," in *Issues in Dispensationalism*, eds. Wesley R. Willis and John R. Master (Chicago: Moody Press, 1994), pp. 118-20.
  - (5) Kaiser, Walter C., Jr., "Jewish Evangelism in the New Millennium in Light of Israel's Future (Romans 9-11)," in *To the Jew First: The Case for Jewish Evangelism in Scripture and History*, eds. Darrell L. Bock and Mitch Glaser (Grand Rapids, MI: Kregel Publications, 2008), pp. 43-51.
  - (6) Saucy, Robert L., "Israel and the Church: A Case for Discontinuity," in *Continuity and Discontinuity: Perspectives on the Relationship Between the Old and New Testaments*, ed. John S. Feinberg (Wheaton, IL: Crossway, 1988), pp. 244-49.
  - (7) Wilkins, Michael J., "Israel According to the Gospels," in *The People, the Land, and the Future of Israel*, pp. 88-100.
- 聖書の引用は、特に指示がない場合は新改訳第三版（新日本聖書刊行会、2003年）による。
- 聖書各巻を示す略語は、新改訳第三版あとがきに準じている。
- 表中における略記は以下を示している。
  - ASV: American Standard Version
  - NASB: New American Standard Bible
  - NRSV: New Revised Standard Version